

ごあいさつ

広島県安芸郡熊野町

町長 三 村 裕 史



「第45回ふれあい書道展」が、多くの書道愛好家の御理解と御協力をいただき開催できましたことに対し、厚くお礼を申し上げます。

広島県熊野町では、江戸時代末期から続く筆づくりの伝統が今もなお継承されております。その確かな製造技術から「熊野筆」は伝統的工芸品として指定されており、全国の筆生産量の大部分を占めております。

本町では昨年度より広島県の無形民俗文化財への指定を視野に入れつつ熊野筆文化の調査・研究を進めております。この貴重な文化を確かな形で後世に残し、この先も熊野町が「筆の都」と呼ばれるにふさわしいまちとして多くの人に筆文化の発信を続けるとともに、文化の継承にも尽力して参ります。

さて、ふれあい書道展はこの度45回目を迎えました。全国47都道府県、また国内のみにとどまらず国外より、最年少は0歳から最高齢は109歳までの幅広い書道愛好家の方々から、16,942点というたくさんの方の応募をいただきました。このことは筆の都熊野町として喜ばしいことであり、筆を持ち、書に親しむ楽しさを多くの方に味わっていただくことで、筆文化の振興と筆を通じた交流が深まっていることを実感しています。

ふれあい書道展の審査は、厳正かつ公正に行われ、賞が決定しています。書を志す方はもちろんのこと、少しでも書道に興味のある方、腕試しをしてみたいという方も是非ご参加いただき、書を楽しんでいただきたいと思います。

結びに、この書道展を開催するにあたり、広島県、広島県教育委員会その他関係諸団体の皆様から御支援、御協力をいただきましたことに深く感謝の意を表し、御挨拶といたします。

第45回ふれあい書道展について

全国書画展覧会運営委員会

委員長 時光良造



コロナ禍は収束せず3年目を迎えましたが、書道愛好家の皆様方に支えられ、「第45回ふれあい書道展」を開催することができましたことに深く感謝を申し上げます。

今回は、47都道府県と海外の1,374団体から16,942点もの素晴らしい作品が届きました。

本書道展にふさわしく、0歳から109歳の方まで、実に幅広い年齢層の方からご出品いただきました。また、台湾から作品が届き、海外においても書道を楽しまれている様子を伺うことができました。

最終審査は審査長として、今回も元文部科学省教科調査官で東京学芸大学名誉教授の加藤祐司先生、前文部科学省教科調査官で東京学芸大学教授の加藤泰弘先生にご依頼しまして、特別賞40点の作品を厳正に、慎重に選んでいただきました。

本書道展は、小・中学生は書写作品を推奨し、いわゆる書の流派などにとらわれない公正公平な審査を高く評価していただいています。また、筆を持ち、書に親しんだ記念にさせていただくため出品者全員に自分の作品画像入りの賞状を贈呈し、大変喜ばれています。

なお、「特別賞」「筆都大賞」「ふれあい賞」の優秀作品は、8月12日から16日までのお盆期間中、筆の都熊野町の町民会館ロビーにおいて感染症対策を行った上で展覧会を開催しました。

夏の展覧会では5年ぶりに出品点数が増えたことから、日本の伝統文化である書を通じて、筆を持つ仲間との創作活動が以前の状況に戻りつつあると感じています。これからも心豊かで充実した人生を送れるようにと願っております。次回も皆様方からの作品をお待ちしています。

終わりに、この書道展の運営及び開催に当たり、広島県、広島県教育委員会をはじめご後援、ご協力をいただきました関係各団体の皆様に対し、厚くお礼を申し上げます。